

| 科目名 | 期別 | 単位数 | 開講年次 | 担当教員名 |
|--------------|----|-----|------------------|-------|
| (新) (旧) 法社会学 | 前期 | 2単位 | (標) 1年 (既) 1年 | 檜澤 秀木 |

| | | | |
|----------------------|---|------------------|--|
| 授業目的 | 日本の司法制度の問題を政治的、あるいは制度的・原理的側面から考究することにより、法現象を社会的事象の流れの中で捉える法社会学的考察に親しませる。なお、テキストの内容を分担して報告させる。 | | |
| 達成目標 | 法解釈学的考察方法と並んで、スムーズに法社会学的考察方法も取ることができるようになり、ひいては自らが法曹を目指すことの社会的意義を省察できるようになることが目標である。 | | |
| 授業計画と予習事項 | 回数 | 各回タイトル(テキスト範囲) | 授業内容、予習基本事項 |
| | 1 | オリエンテーション | 法社会学の考察方法について概説する。報告分担を決める。 |
| | 2 | 問題提起 | 映画「日独裁判官物語」を見せて問題提起を行う。木佐茂男他『テキストブック・現代司法(第5版)』(以下、「テキスト」と略記する) p.1-30,169-187 |
| | 3 | 日本の司法行政(1) | 最高裁による裁判官統制について、ドキュメンタリーを見せた後、問題提起を行う。テキスト p.31-81,188-212 |
| | 4 | 日本の司法行政(2) | 引き続き、最高裁による裁判官統制について、現状を学習し、議論する。テキスト p.31-81,188-212 |
| | 5 | 日米の基本的な司法観の違い | 日本の司法行政の歴史を概観し、裁判官選任方法の問題点を、アメリカとの対比を通して理解する。(ダニエル・フット『名もない顔もない司法』第1章・第2章) |
| | 6 | キャリアシステムと「司法の独立」 | キャリアシステムと裁判官の独立について検討する。(ダニエル・フット『名もない顔もない司法』第3章・第4章) |
| | 7 | 検察官と刑事司法(1) | 検察官と刑事司法の問題について議論する。テキスト p.82-91,127-141 |
| | 8 | 検察官と刑事司法(2) | 痴漢えん罪を素材として、刑事司法の現状を議論する。冒頭で、関連するドキュメンタリーを見せる。テキスト p.82-91,127-141 |
| | 9 | 裁判員制度 | 裁判員制度について、対立する見解を検討する。P.231-248 |
| | 10 | レポート発表 | 秋山賢三『裁判官はなぜ誤るのか』岩波新書についてレポートを提出し、全員で検討する。 |
| | 11 | 民事紛争(1) | 民事紛争とはいかなる現象か、学習する。和田仁孝『民事紛争処理論』 p.31-60 |
| | 12 | 民事訴訟(2) | 民事紛争における日本人の法行動について学習する。テキスト p.103-126,213-227 |
| | 13 | 弁護士 | 司法修習生給費制を素材にして、弁護士の社会的意義について議論する。 |
| | 14 | 司法と日本社会 | 光市母子殺害事件を素材として、日本社会の司法観を議論する。冒頭で、関連するドキュメンタリーを見せる。資料として、法曹倫理・番組向上機構の決定を用いる。 |
| 15 | まとめ | これまでの授業のまとめを行う。 | |
| 授業方法・予習上の留意点(各回指示以外) | 報告の分担を決めるので、担当者には簡単なレジュメを準備してもらおう。その他の受講生についても予習をしてきていることを前提に授業を行う。 | | |

| | |
|---|--|
| 自習事項 | |
| 評価方法と 評価基準 (期末試験・ レポート・ ディベート 等) | レポート30点、期末テスト70点とする。授業の出席では加点しないが、遅刻・欠席では減点する。さらに、特にすぐれた発言や質問をした者には加点する。 |
| テキスト 独自教材 | ① 木佐茂男他『テキストブック・現代司法（第5版）』日本評論社 ② 秋山賢三『裁判官はなぜ誤るのか』岩波新書 なお、その他、必要な教材は、プリントして配布する。 |
| 参考書 (3～5冊) | 木佐茂男『人間の尊厳と司法権』日本評論社、ダニエル・フット『名もない顔もない司法』NTT出版、新藤宗幸『司法官僚』岩波新書、和田仁孝『民事紛争処理論』信山社、映画「それでもボクはやっていない」東宝 |